

大町博憲

さん



[プロフィール]
大町 博憲 (おおまち ひろのり)
1965年生まれ。那珂川町出身。
福岡市役所勤務。

ラグビーの競技経験が全くない大町さんがこの世界に足を踏み入れたのは平成13年1月のこと。2人の息子が幼稚園に通う傍ら、福岡市内のラグビースクールに入ったことがきっかけでラグビーに深く関わる生活が始まることに。福岡市ラグビーフットボール協会理事長に就任するまでに至った経緯、そしてこれからのことを聞いてみました。

何も知らないところから のスタート

全く知らないラグビーと関わることになった大町さんは、所属のラグビースクールは、ラグビーを教えると同時に人づくりを大切にする方針で、保護者が一緒に関わることも多い。競技経験のない大町さんはラグビー以外の事を教える役割を担う。「ラグビーを観たこともないし、ルールもわからないし、できることが限られていました。」と話す。

ラグビーと深く関わった 10年間

息子がラグビースクールに通っていた約10年間、ほぼ毎週末グラウンドに足を運び、そこでできた繋がりから福岡市ラグビーフットボール協会理事の仕事も任されるようになる。ラグビースーズンである9月から翌年2月までは特に試合が多く、国内最高峰のリーグであるトップリーグや、世界の高校生が集まる大会、小中学校の試合運営など、その活動は広がっていった。普段は関わる事ができない貴重な経験をさせてもらっているという反面、「ラグビーの競技経験がない自分がなぜこんな場所にいるのか」という不思議な気持ちになるときもあったという。

家族の会話はやっぱり ラグビー！

このようなライフスタイル。やはり家族の会話は自然とラグビーの話題に。「息子の練習の送り迎えの時は自然とラグビーの話題になることが多かったんです。子ども達が成長する過程でラグビーということが、長年の話題があったことが、良かったと思える瞬間の一つでしたね。」と笑顔で話す。

苦労と感じさせずに話す 苦労話

色々な活動を続け、大町さんは平成20年、福岡市ラグビーフットボール協会理事長の職に就く。しかし、ラグビーの活動は本業ではなく、全てボランティアである。日中は仕事で動けないため、出勤前の時間を使っただけの作業、夜

これからできることは 何か

現在は協会理事長の職を退いているが、引き続き協会に身を置く大町さんから最後に一言、「2019年にラグビーワールドカップの日本開

催が決定しています。福岡市でラグビーワールドカップの試合を開催したい。福岡市ラグビーフットボール協会としても一人としても何かできることがあったら何でもやる覚悟です。これまで貴重な経験をさせてくれたラグビーに対して恩返しをしたい、そういう気持ちでこれからもラグビーと関わっていきたいと思います。」大町さんの活躍はこれからも続く。



「HSBC アジア五カ国対抗 日本VSフィリピン」会場の様子



「2012 ゴールデンオールデイズ・ワールドフェスティバル福岡」での写真